

近年の気象傾向・風水害

近年、長崎大水害と同様の記録的豪雨が多発しています。

日本の気象の傾向

(日本の年平均気温は上昇傾向)

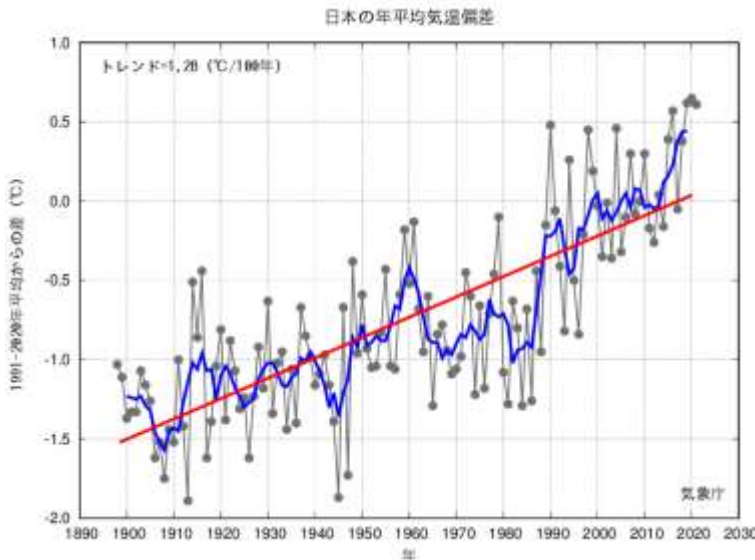
2021 年の日本の年平均気温は 1991～2020 年の平均気温に比べ、0.61℃高くなりました。

日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり約 1.28℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が増えています。

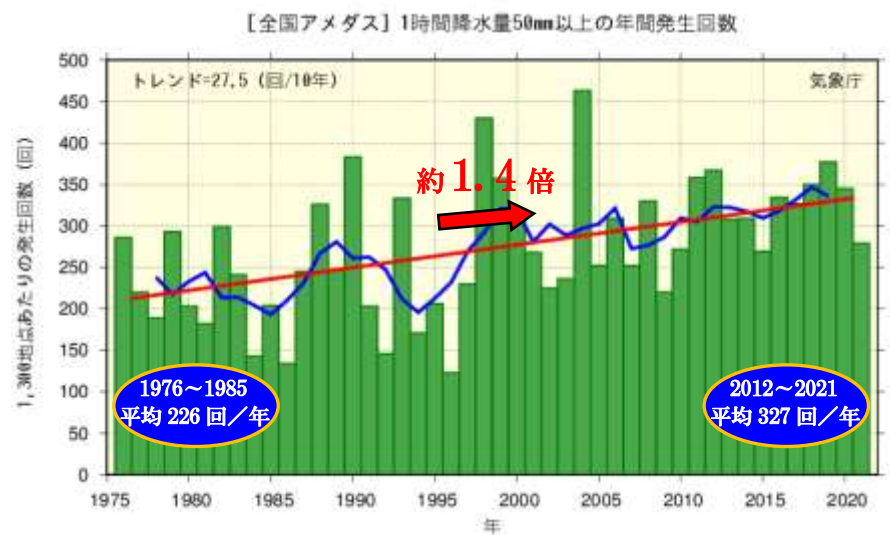
(短時間の降水量の発生回数も増)

アメダスが観測した 1 時間雨量 50mm 以上の強雨の発生回数を年ごとに集計し、グラフにしました。

最近 10 年間 (2012～2021 年) の平均年間発生回数 (約 327 回) は、統計期間の最初の 10 年間の平均年間発生回数 (約 226 回) と比べて約 1.4 倍に増加しています。



日本の年平均気温偏差



1 時間降水量 50mm 以上の年間発生回数

〈気象庁 HP より〉

日本で多発する風水害

近年は、気候変動の影響により、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。この降雨量の増大傾向は今後も進むと予測され、今世紀末には洪水の発生頻度は約 2 倍になるとの予測もされています。

〈近年の全国の主な災害〉

九州北部豪雨 (福岡県朝倉市・大分県日田市他) / 平成 29 年 7 月

平成 30 年 7 月豪雨 (西日本 11 府県) / 平成 30 年 7 月

令和元年 8 月豪雨 (佐賀県、福岡県、長崎県) / 令和元年 8 月

19 号台風災害 (関東甲信、東北地方等 14 都県) / 令和元年 10 月

令和 2 年 7 月豪雨 (九州、中部地方等) / 令和 2 年 7 月

令和 3 年 8 月豪雨 (九州、中部地方等) / 令和 3 年 8 月



九州北部豪雨災害



平成30年7月豪雨



令和2年7月豪雨



19号台風災害

〈写真：国土交通省 HP より〉